

立体交差急速施工法の開発(その2)

ー景観に優しいTQB-B工法ピアタイプー

小林 信明・小原 直・笠倉 和義

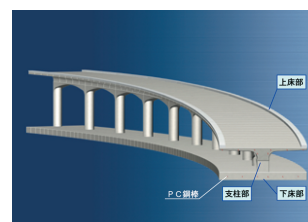
Development of Rapid Construction Methods for Grade Separations Part II

ーTQB-B Construction Method "Pier Type" for a Seenic Cityー

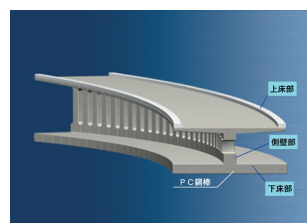
Nobuaki KOBAYASHI, Naoshi OBARA and Kazuyoshi KASAKURA



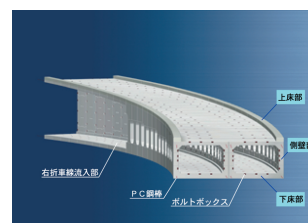
ピアタイプ完成図



ピアタイプ



ウォールタイプ



ボックスタイプ

研究の目的

ここ1～2年の立体交差急速施工法の開発競争には目を見張るものがあります。新聞発表等も多くされております。近年、政府・地方自治体が中心となって推進している、都市再生事業、中でも交通渋滞解消事業に対する、建設業界の関心の高さがうかがわれます。当社は、業界に先駆けて、交差部立体化の課題に着目し、交通渋滞解消による都市再生をいかにすれば効率的に、住民の方々に、環境に優しい形で成し遂げられるか、という命題を追及し、技術開発を続けております。その答えの一つとして、既に発表しているTQB-B工法の新しいタイプとして、ピアタイプを開発致しました。

技術の説明

TQB-B工法のウォールタイプ及びボックスタイプと同様に、工場で製作したプレキャストコンクリートブロックを現地で組立て、P.C鋼材で緊張一体化し、立体交差施設を構築する工法です。形状としては、開口が大きく景観に優れた支柱式であることが「ピアタイプ」の大きな特徴であります。

主な結論

TQB-B工法ピアタイプの特徴は、「景観に配慮した、見通しの良い構造である」ばかりでなく、TQB-B工法の特徴である「構造物のプレキャスト化と、P.C鋼材の緊張一体化により、超急速施工を実現する」ことも併せ持っております。ピアタイプの場合、2車線交通規制で約2ヶ月で完成という短工期です。

「TQB-B工法ピアタイプ」が加わり、一層充実した工法となったTQB工法の特徴を活かすことにより、都市再生と都市部の交通渋滞解消が速やかに推進されると考えています。